

平成30年度～令和2年度

国語科研究の あゆみ

気持ちを問う問い

どんな気持ちで「ニャーゴ」と答えたのか。（「ニャーゴ」）
みんなはどんな気持ちで
はりねずみに
いろんなものをあげたのか。
（「はりねずみと金貨」）



意味を問う問い

「ほこらしい」とは
どういうことか。（「走れ」）
「最後のプライド」とは
どういうことか。
（「風切るつばさ」）

理由を問う問い

なぜ小さなねずみが来て
ぬけたのか。（「大きなかぶ」）
なぜ、しんし達の顔は
もとにもどらなかったのか。
（「注文の多い料理店」）

対話的な学び指導観試案

未来を拓く子供の資質・能力の育成

問いを手掛かりに読みを深める子供

対話的学びの実現

指導要項の話し合うことに関する項目	教員の手立て	学習を醸成させたい文化
<p>〈高学年〉</p> <p>オ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。</p> <p>〈中学年〉</p> <p>オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。</p> <p>〈低学年〉</p> <p>オ 互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。</p>	<p>① 「参加者6箇条」を誉める</p> <p>(1) 話す (2) 質問する (3) 説明する (4) 動く (5) チームで協力する (6) チームに貢献する</p> <p>② 児童の反応を「問いかけ」に変えて、かけあいを生み出す ※ペア→グループ→全体という順序で指導する</p>	<p>① 一人一人が違ってよい</p> <p>② 自分の考えをもつ</p> <p>③ 周囲の意見に流されない</p> <p>④ 一人をつくらない</p> <p>⑤ 自分から友達に話しかける</p> <p>⑥ 考えを聞き合う</p> <p>・反応する（相槌を打つ）</p> <p>・話題をつなげる</p> <p>・相手の気持ちに立つ</p>

対話指導の一步目

①(自分から)話す ②質問する ③説明する + 一人をつくらない

対話的活動の工夫を機能させるための土台

技法の前に「授業に臨む心構え」を共有する

- 1 授業を通して、支持的風土、規律、思考の広がり育成する
- 2 マイナスをマイナスと捉えず、プラス（≒成長のチャンス）に転換させる姿勢を見せる
- 3 教師のコミュニケーションの姿が児童に感化を与えることの自覚

社会の変化に学校の変化が追いつけていないことの自覚
学校が未来の社会を創り出すことの自覚

これからの社会
超スマート社会・人口減少社会・グローバル社会

現代のコミュニケーション上の課題
マウント取り・孤独感・対話における敗北感

国語科授業観試案

Society3.0
工業社会

Society4.0
情報社会

Society5.0
超スマート社会

学校 ver1.0 勉強の時代 (コンテンツ・ベース)

- ・ 重視されたのは、知識を正確に記憶する基礎学力、忍耐強さ、あらかじめ定められた計画を着実にこなす正確さ。

学校 ver2.0 学習の時代 (コンピテンシー・ベース)

- ・ 重視されているのは、**自分自身の文脈で情報を収集**し、協働・対話を通じて新しい価値や「納得解」を生み出す力。

学校 ver3.0 学びの時代 教育プログラムの**個別最適化**

- ・ 語彙、読解力、数的感覚などの学力の基礎。
- ・ 実体験を通じた他者とともに生きることの実感。
- ・ 未知の世界に挑戦する好奇心
- ・ 苦心してモノを作り上げる力

現在、学校 ver1.0 から学校 ver2.0 へ更新中

文学的な文章において“**問い**”を手掛かりに学びを深める対話的な活動の工夫

自ら問いを立て、他者と関わり合い、自分なりの納得解を生み出し、新たな問いを立てる子供

これまでの授業研究

発問研究中心

児童の思考を促す良質な発問
(問い返しの発問を含む)の蓄積。

いかに深く考えさせるか？

+

これからの授業研究

問いの研究

問いの質を深めるところを中心にした
教師の働きかけ(支援・指導)のあり方の追求。

いかに学びを支援するか？

問いは、児童自ら読み進めるための「手掛かり」であり、児童の学びを放任するものではない。

そのために・・・

- ① 学年に応じた指導・支援のイメージを共有する。
- ② 言葉による見方・考え方が働いているか意識して実践を重ねる。
 - 言葉による見方・考え方
 - 対象と言葉、言葉と言葉の関係を (→ 国語科の学習対象)
 - 言葉の意味、働き、使い方等に注目して (→ 視点)
 - 捉えたり問い直したりして (→ 分析・統合)
 - 言葉への自覚を高めること (→ 納得解・最適解を生み出す)

国語科授業研究のあゆみ

—“問い”の授業における 教師がもつ“問い”—

H29年度
終了時

今まで、課題の「解決」には目を向けてきたが、
これからはもっと課題の「発見」に目をむけてもよいのでは？

“問い”の授業スタート

H30年度
スタート時

- ①児童に“問い”が作れるのか。
- ②どうやって“問い”を選ぶのか。

“問い”の授業に対する
教師の“問い”

H30年度
終了時

- ①児童は“問い”を作ることができる。積み重ねることで“問い”の量や質も上がった。
- ②“問い”を作ったり選んだりする視点（フレーム）を与えることで“問い”の選別は可能となった。

〈その他の成果〉

- ・ 問いを分類することができた。
- ・ 対話によって新たな解釈が生まれた。
- ・ 単元を進める中で、問いが進化することもあった。

〈新たな“問い”〉

- ・ 国語の力が本当に付いているのか。
- ・ 問いを作ったり選んだりするのは、
視点（フレーム）が必要なのではないか。

H31年度
スタート時

- ①“問い”を選ぶ視点（フレーム）を明確にさせたい
- ②さらに良質な“問い”づくりをするにはどうすればよいか

“問い”の授業を通して
児童の思考を深めるための
教師の“問い”

R1年度
終了時

- ①「つきたい力」を明確にして“問い”を作らせる、または「つきたい力を見通した言語活動」を明確にして“問い”を作らせる、など様々な実践から“問い”の授業のパターンが見えてきた。
- ②振り返りをして、自分たちの作った“問い”を価値づけていくことで、“問い”の質が上がった。

〈その他の成果〉

- ・ 「心情の変化を問う問い」「意味を問う問い」
は面白い、という気づきが児童から出た。

〈新たな“問い”〉

- ・ 問いの授業において、より効果的に
対話を取り入れることができないか。

R2年度
スタート時

- ①対話の取り入れ方をもっと明確にするべきではないか
- ②“問い”の授業によってどんな力がつくのか明確にしたい

“問い”の授業と
児童の学力・対話に関わる
教師の“問い”

2年生「お手紙」言語活動をフレームとした問い

教師による紙芝居



私たちも
やってみよう！
1年生に
聞かせてあげたい！

聞き比べによるフレームの提示



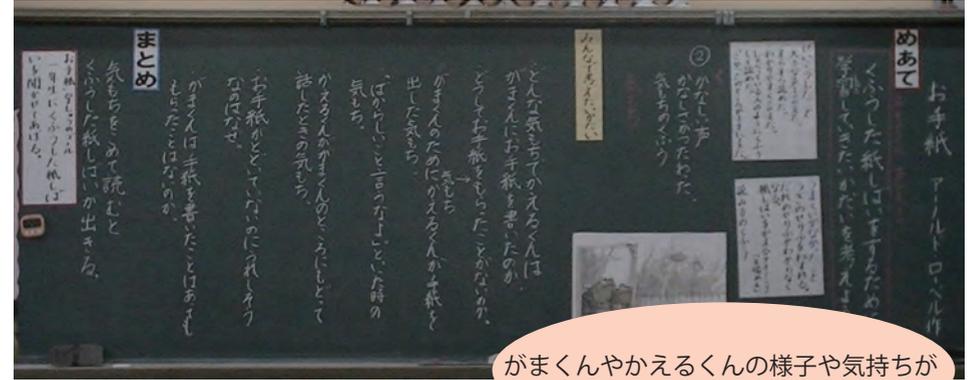
A
単調な音読

B
抑揚のある音読

Bの方がいいね

がまくんの様子や
気持ちが
伝わってくるよ

問いづくり・問いえらび



がまくんやかえるくんの様子や気持ちが
分かる問いを考えてみよう

問いの解決

児童から出てきた問い（一部）

- どんな気持ちでかえるくんは
がまくんに手紙を書いたのか
- どうしてがまくんは手紙を
もらったことがないのか
- 二人はなぜ手紙がとどいていないのに
しあわせそうなのか

場面ごとに
考えてみよう！

問いを解決したら
その場面の
紙芝居の
練習をするぞ！

紙芝居の発表



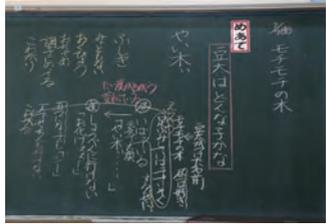
児童の振り返り

問いを解決するために
みんなの考えを
たくさん聞いたから
いい紙しばいができてよかった。

3年生「モチモチの木」学習課題から読む

学習課題をもつ

豆太ってどんな子だろう？



みっともない！

自分と似ているな

ちょっとかわいい

問いづくり

- ① どうして豆太はおくびょうなのに昼間はいばっているのか。
- ② 豆太はどこで変わったのか。

②が気になるからみんなで考えたい！



①の解決

- ・豆太は強いおとうにあこがれているんだと思うよ。
- ・でもこわがる気持ちも消えないのかもしれないね。
- ・豆太は自分に自信を持っていないんじゃないかな。

設定から人物像をつかむ

②の解決



「医者様をよばなくっちゃ！」と行動したところだと思うよ。

展開から人物像をつかむ

モチモチの木に火がついたのを見て自分に勇気があることに気付けたのかもね。

児童のまとめ

おくびょうだった豆太が変わったのは、医者様を呼びにとび出した時かもしれないけれど、モチモチの木に火がついたところを見た時、豆太は自分に勇気があることに気付けたんだと思う。

人物像から深まった読み

5年生「注文の多い料理店」問いから物語を読む

児童からの問い

- ① どうしてしんし達を食べようとしたのか
- ② しんし達はいつから怪しいと思っていたのか
- ③ 山猫軒は一体何なのか
- ④ 二人の顔はなぜ元通りにならなかったのか
- ⑤ 作者は何を伝えたいのか



不思議な話だし、問い⑤が気になるな

でもすぐには答えを出せなさそう



まずは解けそうな問いから考えてみよう

①の解決

- ・イギリスの兵隊の形って不思議な表現だな
- ・そもそも何でしんし達は獵師でもないのに狩りをしているんだろう
- ・ぴかぴかする鉄砲？

しんし達は娯楽で狩りをしていて、犬のこともお金でしか考えていないから食べられそうになったのでは！？

人物像の把握

②の解決

- ・しんし達は扉の言葉から勘違いしていたのかな
- ・「さあさあおなかにお入りください」は「中」じゃなくて「お腹」の事だと思っよ
- ・山猫の書いている意味と紳士達の思っていることは全然違って面白いね

表現の効果への気づき

他の作品メッセージを考える



誰かを差別したり競争したりしないでいい
自然や動物を大切にしてほしい

⑤の解決

問い⑤を解決するためには・・・

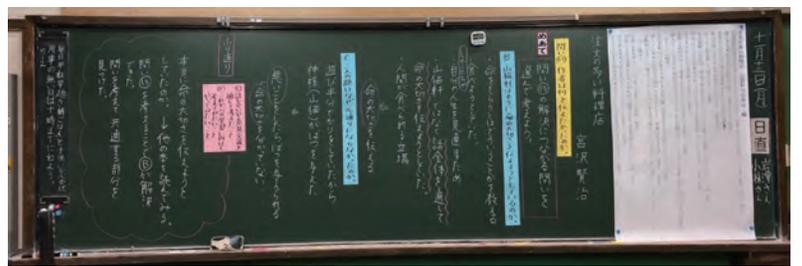
④を考えたい

- ・遊び半分で狩りをしていたから神様(山猫)が罰を与えた
- ・しんし達は反省しなかったから顔が元に戻らなかった

③を考えたい

- ・命を大切にしないしんし達に命の大切さを教えようとした
- ・人間が「食べられる立場」になる場所
- ・命をもらうとはどういうことかを教える

読み取ったことから自分の考えをまとめる



宮沢賢治は命の大切さを伝えようとしたのではないかと
他の作品も読んでみたい

他読への広がり

問いの振り返り

「問い」から生まれた「問い」を考えていくことで、作者が伝えたいことが分かった。
「問い」や「答え」に共感したり納得したりすることで深く読むことができた。

学年が上がるにつれて、段々と児童主体へ

1年

2年

3年

4年

5年

6年

児童の「読み方」をつくる

文学的文章の「読み方」を確実に習得させることが必要な時期。
児童から良質な問いが生み出されたり、児童が良質な問いの判断を
したりすることは難しい。

そのため・・・

- ・良質な問いの選別が難しい場合、その児童の立てた問いの中から良質な問いを教師が選び、提示することも必要。「先生は、この問いも考えてみたいのだけど・・・。」
- ・あえて、良質でない問い（根拠が叙述にない問いなど）に取り組みさせることも必要。「失敗から学ぶ」
- ・児童の思考を刺激する良質な発問（単元で必ず考えさせたい問い）をする。→「問うべき問いを問う」
- ・「なぜ」「どのような」などの「問い作りのための言葉」を教師から順次提示していく。

「こんぎつね」
深い読みのために確実な力の定着・積み重ねが必要

「読みを深める自分」を自覚させる

児童が自分の読みについてメタ認識することが段々と可能になってくる時期。

入学時から問いの振り返りを経験することにより、良質な問いの選別を児童自らが行うことが可能になってくる。さらに、児童自ら学習計画を立て問いの解決をすることができるようになるため、学びが加速する。

「海の命」
積み重ねた力を使った納得解への到達を目指す

教師の指導

教師の支援

「問いを振り返る活動」主に単元終末時

選ぶ振り返り

「どの問いが一番楽しかったですか？」



比べる振り返り

「どちらの問いが考えが深まりましたか？」



価値を考える振り返り

「なぜの問いの・・・」
「どの問いが読みを深めましたか？」
「なぜそう考えますか？」